

1. 件名：「志賀原子力発電所2号機の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（48）」

2. 日時：令和3年4月26日（月）13時30分～15時20分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、菅谷技術研究調査官、磯田係員、松末技術参与

北陸電力株式会社：小田執行役員 他9名 ※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 敷地近傍の断層の評価
- ・ 志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 補足資料
- ・ 志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について データ集2（音波探査記録）

時間	自動文字起こし結果
0:00:04	原子力規制庁谷です。時間になりましたのでヒアリングを始めたいと思います。今日は志賀原子力発電所 2 号炉敷地の敷地周辺の地質地質構造についてということで、敷地近傍の断層の評価ということで、
0:00:19	ヒアリングを行います。まず資料の説明のほうからよろしくお願いします。
0:00:26	はい、北陸電力の小田でございます。今日はよろしくお願いいたします。ゴールデンウィーク前のお忙しい所でヒアリングを入れていただきまして本当にありがとうございます。前回からの加筆した点変更した点を中心にまた御説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。
0:00:47	はい。
0:00:58	すみません、北陸電力の藤田です。私のほうから資料の構成と概要 3 分程度で御説明いたします。
0:01:07	説明は全体で 30 分を予定しております。
0:01:10	資料の構成は、本資料、補足資料、データ集で構成の変更ありません。
0:01:15	なお、データ集の海上音波探査記録につきまして、
0:01:20	同じ測線上で、ブーマーとスパーカーの重複した部分がある場合は両方のデータを先生ばかりを追加しておりますので、よろしくお願いいたします。
0:01:30	それでは前回のヒアリングの変更点を中心に御説明します本資料をお願いいたします。
0:01:36	目次前で変更したのは、4 ページと 5 ページの 2 ヶ所です。
0:01:40	4 ページ目をお願いします。
0:01:43	断層面にルビをしております。
0:01:45	本部の断層値なんにも断層、層面をある日でわかるように表示してございます。
0:01:52	続きまして 5 ページをお願いいたします。
0:01:55	認識ず近傍の断層の評価結果で説明する概要を左上の四角枠に黄色丸三つで記載しております。
0:02:04	記載の趣旨は変更してございません。
0:02:07	また、個別断層の評価結果につきましては、表の形式で整理してございます。
0:02:12	表の左側から断層の名称文献、それから、空中写真によるリニアメント変動地形の判読結果。
0:02:20	本店の結果、
0:02:22	それから詳細調査括弧地質調査等々あるんですけども、これは地形地質物理探査を踏まえた詳細調査の結果を記載日
0:02:33	評価の欄で、断層の活動性の有無についてその概要を記載してございます。

0:02:39	一覧表のですね、断層名で括弧Bのは第2波、
0:02:44	の断層からかっこいいの高津森山東方リニアメントにつきましては、
0:02:50	資金の文献には記載はございません。当社もリニアメント変動地形として判読していませんけれども、
0:02:58	新編日本の活断層でかつ実度が低いながらも、実際でございます。
0:03:03	これらについても詳細な地形解析に加え、地質調査も行った上で評価してございます。その概要を記載してございます。
0:03:13	飛びまして11ページ目をお願いします。
0:03:16	目次です。
0:03:17	前回のヒアリングでは断層が認められない、または活動性が認められないとしたその他の断層等につきましては、一括して説明する構成にしておりましたけれども、
0:03:29	今回は100ページ2.2.2の永田沖の断層から2.2.6たかつぼり山東方リニアメントまでの5断層を個別に記載してございます。
0:03:40	もしくは該当ページで御説明します。
0:03:43	以上が概要となります。13ページ目以降は、キムラのほうから御説明いたします。
0:03:51	はい、北陸電力キムラです。それでは13ページからの内容で前回から資料の記載を充実させた点につきまして御説明いたします。
0:04:01	まず47ページをご覧ください。
0:04:07	47ページ、これ敷地周辺陸域の活断層に関する主な文献ということで、新編日本の活断層、左側と右側、活断層詳細デジタルマップの新編の大きくはこの二つに
0:04:23	集約されますが、これらにつきましては、下の米印のところに記載しておりますが、活断層の記載が主目的の文献のうちへの担当全体を対象等を含む対象に含むものであり、
0:04:38	新編と急変のあるものについては、新編のみ記載しました。
0:04:44	日本の活断層につきましては、それ以前の文献の成果も参照して取りまとめたものでございまして、それらの文献については判読者も同じであると。
0:04:55	ということなどから、日本の活断層とそれから最新の文献である活断層詳細デジタルマップのこの二つを代表として、ここに示しております。
0:05:07	その他の文献、例えば加藤杉山逸985のかつコート活構造図などの図面につきましては、補足資料の1.1-1のほうに添付しております。
0:05:21	続きまして、61ページをご覧ください。
0:05:27	61ページ福浦断層の評価結果になります。

0:05:32	このページのように、各断層の活動性や長さの評価結果につきまして、今回構成を見直しまして、1 ページでまとめております。
0:05:43	まず上の箱書きですけれども、文献調査の結果、活断層研究会 1991 は福浦断層確実度 I a 東側低下の活断層として図示しておりまして、NS 走向長さ 2.5 km
0:05:59	活動炉水西側の改正段丘 H2 面が 20m 隆起というふうに記載しております。
0:06:08	今泉ほか 2018 については、推定活断層及び屈曲へ水系の屈曲を図示しております。
0:06:17	それから空中写真判読の結果、文献で示される福浦断層とほぼ同じ位置の福浦港東部から大坪がダム付近までの約 2.7km 区間に逆向きの低該当からなるリニアメント変動地形を判読しました。
0:06:33	右の図のところに文献で示されている長さを、青色の矢印で示しておりまして、リニアメント変動地形を判読した長さを黒の矢印で最終的に評価した長さと北端南端の位置については、
0:06:49	太い矢印で図示しております。
0:06:54	活動性評価については、一番左の箱書きにまとめてまとめておりまして、これらの調査の結果、福浦断層は後期更新世以降の活動は否定できないと評価したということを期待しております。
0:07:07	長さの評価については、その右の箱にまとめておりまして、
0:07:12	北端については、地形調査の結果、膨らみ等東部で逆向きの低害が認められなくなること。
0:07:19	それがさらに北方延長の地質調査の結果福浦断層に対応する断層は認められないことから逆向きの定義が認められなくなる膨らみ等頭部を福浦断層の北端と評価したということを記載しております。
0:07:35	それから南端につきましても、地形調査の結果、
0:07:39	ツバがダム付近で逆向きの低害が認められなくなること。
0:07:44	南方延長の地質調査の結果、断層は認められないことや、中位段丘面の旧汀線今度はほぼ同じ高度で連続するという事などから逆向きの低害が認められなくなる。大坪が駄目付近を
0:07:59	福浦断層の南端と評価したということを期待しております。
0:08:04	従って、この北端から南端までの約 2.7km 区間を強化したということを期待しております。
0:08:13	次に 62 ページをご覧ください。
0:08:17	福浦断層の文献調査結果につきまして、文献の記載を充実させております。

0:08:23	まず一番上の丸につきましては福浦断層命名した太田ほか 1976 について二つ目の丸については、日本の活断層について、
0:08:35	三つ目の丸については、活断層詳細デジタルマップ、
0:08:39	四つ目の丸以降に、その他の文献、関連する文献での記載内容を詳細に示しております。
0:08:48	この下の図で、赤線は日本の活断層等によって示された活断層の位置を示しております。
0:08:56	日本の活断層は、それ以前の文献の成果も参照して取りまとめたものであり、それ以降の文献についても判読者が同じで、図示されて1も図示されている位置もほぼ同じであるため、このようにまとめております。
0:09:12	黒線については、活断層詳細デジタルマップによる推定活断層の位置を示しております。
0:09:19	次の 63 ページをご覧ください。
0:09:24	63 ページの下のほうに示している地形断面図につきまして、航空レーザー計測により作成したということを含弧書きで追記しております。
0:09:34	この航空レーザー計測につきましては、
0:09:37	ちょっと 17 ページのほうですけども、17 ページに示しているように、
0:09:42	能登半島の全域で実施しております、この全範囲で 1 メーターDEMを作成したということに記載しております。
0:09:53	これ以降のページでも同様に、航空レーザー計測により作成と記載している地形断面図については、この 1 メーターデモを用いて作成しております。
0:10:05	それから、64 ページをご覧ください。
0:10:10	64 ページの福浦断層周辺の地形の特徴のところ、上から三つ目の丸のところですけども、今泉ほか 2018 が図示した右横ずれの水系の屈曲につきましては、
0:10:24	水系のポンプ本数が少なく、系統的か否かの判断ができないことから、H今日地形の要素にHって要するに組めなかったということと、それから当社がリニアメント変動地形を判読した緩和、今泉ほか 2018 が図示した。
0:10:40	推定活断層の区間を包含しているということを追記しました。
0:10:46	次 65 ページをご覧ください。
0:10:50	今回追記した青色のLDランクのリニアメント変動地形につきまして、前回の資料では地形予想直線上の谷橋してタニの中心付近にリニアメントを図示しておりますが、今回地形要素の記載を適正化しまして、
0:11:08	逆向きの低外として、タニの西側の崖のところにリニアメントを図示しました。
0:11:16	またこの逆向きの低外の北方延長のレベルに鞍部が認められると。

0:11:22	ということから、今回これも含めて、リニアメントを少し北側の方に伸ばしております。
0:11:29	次、66 ページの地質図ですけども、右のほうに地質断面図を追加しております。
0:11:36	他の断層についても同様に、地質図と地質地質断面図を追加しております。
0:11:44	それから続きまして、93 ページをご覧ください。
0:11:52	93 ページ、大坪がダム周辺の地形断面図になりまして、この
0:11:58	大坪はダム周辺で今回追記しましたDランクのリニアメントの南方延長-D' 断面につきまして、今回このリニアメントの延長位置を破線の矢印で追記しております。
0:12:15	このBランクのリニアメントの延長位置の高位段丘 I b面には段丘面の傾斜東側への傾斜などの異常は認められないということを示しております。
0:12:27	次に、94 ページご覧ください。
0:12:32	リニアメントの南方延長で実施した表土はぎ調査の西側の高位段丘 I a面において逆向きの低該当の異常は認められないことを確認しているということがわかるように、93 ページで示したS1S1' 断面の
0:12:50	一応 94 ページの真ん中の図のほうに追記しております。
0:12:57	福浦断層については以上になります。
0:13:00	それから 100 ページ以降につきましては、前回敷地近傍のその他の断層等と人まとめにしておりましたが、今回個別断層ごとに評価結果をまとめましたので、それについて説明します。
0:13:16	まず 101 ページが永田付近の評価結果をまとめたページになります。
0:13:22	まず上の箱ですが、文献調査の結果で活断層研究会栄一救急位置は、永田付近の断層をかつ確実度Ⅱで東側低下の断層として、図示しておりまして、N S走向、
0:13:38	長さ 2km、活動度C西側の改正段丘H2 面が 30m隆起というふうに記載しております。
0:13:47	内済みほか 2018 は、これに対応する断層を図示しておりません。
0:13:53	空中写真判読の結果、文献が図示している永田付近の断層とほぼ同じ位置の約 2.5km区間に急崖等からなるリニアメント変動地形を判読しました。
0:14:06	右の図で、文献で示されている位置長さを青色で示しておりまして、当社がリニアメント変動地形を判読した長さを黒い度で矢印で示しております。
0:14:18	永田付近の断層は岩稻階の穴水累層と同世代二階のアクセス先 5 相当の地質境界付近に位置している急崖鞍部へ直線上の谷をリニアメント変動地形として判読したものになります。

0:14:34	右の図で赤枠で囲った地点において、地質調査を実施した結果、リーマンリニアメント変動地形に対応する断層は認められず、草木固相が穴水累層を不整合に覆っていることを確認しました。
0:14:49	従って、黄色の四角のほうに記載の通り、リニアメント変動地形として判読した地形は絡みで移送と、先ほど層の地質層境界を反映した差別侵食地形であると評価しました。
0:15:03	これ以降のページは、データとなっております、102 ページが文献調査結果を同様に詳細について記載しております。
0:15:14	103 ページが地形調査結果で 104 ページの左の図にリニアメント変動地形を判読した地形要素を示しております、右のほうに地形断面図をつけております。
0:15:27	105 ページからは地質調査結果になりまして、106 ページが表土はぎ調査でリニアメント変動地形の近傍において、さき構想が穴水累層を不整合に覆っている状況を確認したデータ。
0:15:41	107 ページがリニアメント変動地形を判読した鞍部を横断して実施した強度はぎ調査の結果、断層が認められないことを確認したデータを示しております。
0:15:52	108 ページは重力探査結果ですが、永田付近の断層に対応する重力異常は認められません。
0:16:01	109 ページ以降の断層等については、資金の文献では断層等は示されておらず、我々もリニアメント変動地形を判読していないものですが、別途個別に詳細。
0:16:14	調査を行っておりますので、その評価結果をまとめたものになっております。
0:16:21	110 ページはは構台南の断層の評価結果をまとめたページになります。
0:16:27	文献調査の結果、かつ争う研究会 1991 は構台南の断層を確実に北側低下の断層として図示しております、EW走向へ長さ 2km、活動度し、
0:16:42	南側の改正段丘H1 面が 10 から 20m隆起というふうに記載しております。
0:16:50	空中写真判読の結果、文献が図示している若尾代南の断層と推定される位置にリニアメント変動地形は判読されません。
0:17:00	詳細データは後ろのページにつけておりますが、は構台南の断層と推定されるタニつけを挟んで高位段丘 5 面に高度差がないことを確認しております。
0:17:11	また地質調査の結果はこうだ南の断層と推定される位置のサーバには穴水累層の安山岩、安山岩質火砕岩が分布しております、そこに断層が認められないことを確認しております。

0:17:25	下がって下の黄色の四角で記載の通りでは構台南の断層に対応する断層は認められないと超過をしました。
0:17:35	以降のページはデータとなっております、111 ページが文献調査結果を 112 ページが地形調査結果になります。
0:17:44	112 ページの地形図に黒枠で示しているところがKN中核工業団地で人交換改変されていると。
0:17:53	人口改変されているので、この範囲については、次の 113 ページに地形改変前の航空写真から作成した地形図を示しております。
0:18:06	人工改変以外の範囲につきましては、航空レーザー計測によって作成した地形図を示しております。
0:18:13	文献で示された位置を太い矢印で示しておりますけども、は構台南の断層と推定される位置には、
0:18:23	図で青線で示すように直線性に乏しいへタニ地形が認められます。
0:18:30	下の二つの断面図に示すようには構台南の断層と推定される位置の直線性に乏しいタニ地形を挟んで高位段丘 5 面に高度差は認められません。
0:18:41	従っては構台南の断層にはリニアメント変動断層付近にはリニアメント変動地形は判読されないというふうに評価しました。
0:18:53	なお日本の活断層で示された確実度ⅡⅢの断層につきましては、より厳密に検討することによって、活断層とそうでないものを明確にしたとされている活断層詳細デジタルマップ、
0:19:07	におきまして、日本の活断は後段南を断層に対応する断層は図示されておられません。
0:19:18	次の 114 ページは地質調査結果になりまして、今回追加した資料になります。
0:19:24	115 ページの地表踏査の結果、構台南の断層と推定される位置のサーバ分には、安全穴水累層の安山岩と安山岩質火砕岩が分布しておりまして、それらは非居破碎で
0:19:39	断層は認められないということを確認しております。
0:19:44	右に箇所の写真をつけておりますが、その他の写真については、補足資料の 2.2-2 のほうに添付しております。
0:19:53	116 ページは重力探査結果では後段南の断層に対応する重力異常急変部は認められません。
0:20:02	続きまして 118 ページをご覧ください。
0:20:06	それから、高津森山北西法 1 リニアメントの評価結果をまとめたページになります。

0:20:13	文献調査の結果、活断層研究会 1991 は敷地から約 4km北方に確実度Ⅲのリニアメントを図示しておりまして、我々はこれを高津森山北西法 1 リニアメントというふうに呼んでおります。
0:20:28	今泉ほか 2018 では対応する断層は図示しておりません。
0:20:33	空中写真判読の結果、文献が図示している推定位置にリニアメント変動地形は判読されません。
0:20:40	地質調査の結果、リニアメントと推定される位置を横断するサーバー部では穴水累層の安山岩質火砕岩は広範囲に連続して分布して、
0:20:52	分布しておりましてそこに断層は認められません。従って、下の黄色の四角で記載の通り、高津森山補正方法 1 リニアメントに対応する断層は認められないと評価しました。
0:21:05	以降のページがデータとなっております、119 ページが文献調査結果 120 ページが地形調査結果になります。
0:21:14	121 ページの図で太い黒い矢印で示した位置が文献で示された位置を示しておりまして、リニアメントと推定されるタニ地形や鞍部を青色で図示しておりますが、
0:21:29	このタニや鞍部は直線性連続性に乏しいということから、リニアメント変動地形は判読されないと評価しました。
0:21:39	次の 112 ページが 122 ページが地質調査結果になりまして、123 ページでリニアメントの推定値を横断するSERPで実施した表土はぎ調査の結果、断層は認められないということを確認しております。
0:21:58	続きまして 126 ページは、高津森山北西方にリニアメントの評価結果をまとめたページになります。
0:22:06	文献調査の結果、活断層研究会 1991 は敷地から約 4km北東方に確実度Ⅲのリニアメントを図示しておりまして、我々はこれを高津森山北西方に入谷面と呼んでおります。
0:22:21	今泉ほか 2018 は対応する断層を図示しておりません。
0:22:25	空中写真判読の結果、文献が図示している推定位置にリニアメント変動地形は判読されません。
0:22:33	リニアメントと推定される位置にあたる直線上の谷付けを挟んで高位段丘 4 面に高度差は認められないということ。それから地質調査の結果、リニアメントと推定される位置のサーバには学べる移送の安山岩質火砕岩が分布し、
0:22:50	そこに断層が認められないということを確認しております。
0:22:54	従って、下の黄色の四角で記載の通り、高津堀家は北西方にリニアメントに対応する断層は認められないと評価しました。

0:23:03	以降のページはデータとなっております、127 ページが文献調査結果 128 ページが地形調査結果になります。
0:23:12	下も断面図に示すように、リニアメントを挟んで置い段丘 4 面に高度差は認められません。
0:23:20	また 129 ページのずれ、太い黒い矢印で文献で示された位置を示しております、リニアメントと推定されるタニ地形を青線で示しておりますが、このタニは連続性に乏しいということから、
0:23:37	リニアメント変動地形は判読されないと評価しました。
0:23:41	130 ページは地質調査結果になりまして、今回資料を追加しております。
0:23:47	会釈 31 ページの地域地表地質踏査の結果、リニアメントの推定値のサーバ一部に断層は認められないということを確認したデータをつけております。
0:23:59	続きまして 134 ページが、高須森山東方リニアメントの評価結果をまとめたページになります。
0:24:08	文献調査の結果、活断層研究会 1991 は敷地から約 2km 東方に、
0:24:15	確実性をⅢのリニアメントを図示しております、我々はこれを高津森山東方リニアメントと呼んでおります。
0:24:22	今泉ほか 2018 は対応する断層を図示しておりません。
0:24:27	空中写真判読の結果、文献が図示している推定位置にリニアメント変動地形は判読されません。
0:24:35	文献が図示しているリニアメントと推定される位置にあたる直線上の谷付けを横断して高位段丘 5 面に高度差は認められないこと。
0:24:45	それから地質調査の結果、リニアメントと推定される位置のSERPIには穴水累層の安山岩質火砕岩が分布して、そこに断層が認め、認められないということを確認しております。
0:24:58	従って、下の黄色の四角で記載の通り、高津森山のほう東方リニアメントに対応する断層は認められないということを強化しております。
0:25:11	以降のページがデータとなっております、135 ページが文献調査結果 136 ページが地形調査結果になります。
0:25:20	136 ページの右の断面図に示すように、リニアメントを横断して、高位段丘 5 面に高度差は認められません。
0:25:29	また比 137 ページの図で、
0:25:32	太い黒い矢印で示した位置に文献が示された位置を示しております、リニアメントと推定されるタニ地形を青線で示しておりますが、このタニは連動性に乏しいということから、
0:25:49	リニアメント変動地形は判読されないというふうに評価しました。

0:25:54	次の 138 ページ圧地質調査結果になりまして、今回資料を追加しております。
0:26:00	139 ページの地表地質踏査の結果、リニアメントの推定位置のサーバーに断層は認められないということを確認確認したデータをつけております。
0:26:13	次に続きまして 143 ページをご覧ください。
0:26:19	243 ページ、5 番島沖断層の評価結果をまとめたページになります。
0:26:25	左の箱で活動性評価、右の箱で長さの評価を分けて記載しております、北東方と北東担当南西断を確認したA測線がわかるように図のほうにも記載しております。
0:26:41	146 ページをご覧ください。
0:26:45	146 ページのNo.107.5-1、s測線を例として説明しますが、
0:26:52	そうの変形がおよんでいる範囲がわかるように、
0:26:57	上の一つ目の丸でAB湾いる装置でBP II 層、Bフリースを営推湾層状面に南預金南落ちの変形が認められるというふうに記載しております。
0:27:12	147 と 148 ページも同様に記載しております。
0:27:18	続きまして、155 ページをご覧ください。
0:27:23	255 ページ兜岩来断層の評価結果をまとめたページになります。
0:27:28	同様に左の箱で活動性評価、右の箱で長さの評価を分けて記載しております北端と南端を確認した測線がわかるように図のほうにも記載しております。
0:27:40	160 ページをご覧ください。
0:27:46	No.8.75-1U側線を例として説明しますが、変形と変位の範囲がわかるように、上の一つ目の丸の記載でBINそうしてBP II 層、B III層の上部に西落ちの変形が認められ、
0:28:04	日 III層下部Cワン層D II 層に西落ちの変位が推定されるというふうに記載しました。
0:28:12	158 と 159 と 161 ページについても同様に記載しております。
0:28:19	次に 164 ページをご覧ください。
0:28:24	164 ページは兜岩沖断層の南端を確認したNo.9.25s測線になりますが、兜岩沖断層の延長部付近に状の形状は認められるということについて、
0:28:39	前回よりより詳細に説明を追記しております。
0:28:45	今回右下のほうに拡大図を追加して示しておりますが、ここで紫色の線で示すPはn層基底面の形状に対して、会議のオレンジ色で示すBP II 層の基底面の形状は、
0:29:00	緩やかとなっております、累積性が認められないこと。

0:29:04	それからBⅡ層の内部に青線で示すように基底面塗布調和の反射面が認められるということから、この形状は侵食によるものと判断したということに記載しております。
0:29:18	次の165ページも同様に説明を追記しております。
0:29:24	続きまして170ページをご覧ください。
0:29:28	岩永断層の評価結果をまとめたページになります。
0:29:33	上から文献調査の結果、活断層研究会1991は見ながらだんだん長い断層を確実に北西側低下の断層として図示しておりまして、NESW層厚長さ2km、活動度B
0:29:49	南東側の改正段丘H反面、改正段丘Mm反面及びDな面がそれぞれ30m隆起というふうに記載しております。
0:30:01	今泉ほか2018は活断層研究会とほぼ同じ位置からさらに北東方に流れずしてありまして、推定活断層及び営推っての屈曲を図示しております。
0:30:16	右のずれ、文献で示されている長さとリニアメント変動地形を判読した長さ。
0:30:23	北東丹南西端の位置と評価した長さがわかるように、他の断層と同様に矢印で示しております。
0:30:33	左の箱で活動性評価をまとめてありまして、右の箱で長さの評価を持ってまとめて記載しております。
0:30:43	長さの評価のところでは北東タニについては、地形調査の結果、まだ付近より北東方にはリニアメント変動地形は判読されないこと。
0:30:53	地形長地質調査の結果、リニアメント変動地形の北東方延長に断層が認められないことを確認しておりますが、
0:31:02	重力探査の結果、右の図で赤矢印で示すように、さらに北東方延長のSOA付近までへ直線的な重力異常急変部が連続して認められることから、地形地質調査の結果も踏まえて、
0:31:19	直線的な重力異常急変部が途絶える地点を置く東端と評価したということに記載しております。
0:31:28	何西端については、海上音波探査により、断層が認められないNo.6.75U側線を何西端と評価しておりまして、長さの評価としては、僕東端から成る西端までの約9.0km区間を評価したということに記載しております。
0:31:47	次の171ページは文献調査結果になりまして、同じように文献の記載を充実させております。
0:31:55	日本の活断層等による活断層の位置は赤線で示しておりまして、活断層詳細デジタルマップによる推定活断層の位置は、黒線で示しております。

0:32:07	172 ページの地形調査のところですが、左のリニアメント変動地形分布図におきまして、時には長い断層の北東方に青線で示すDランクのリニアメントがありまして、これを我々縁谷地リニアメントというふうに呼んでおりますが、
0:32:26	上のほうに米印で注釈で、この2冊リニアメントについては、南側低下の急崖等であり、右側が断層と低下方向が異なるということを追記しております。
0:32:40	それから178ページをご覧ください。
0:32:45	178ページやボーリング調査で認められた破碎部が右側が断層に対応すると判断した根拠につきまして、上から二つ目の丸で
0:32:58	薄片観察等の結果、モーメント構造から逆断層センスが認められることと、
0:33:04	破碎部の傾斜角を考慮すると、地表のDランクのリニアメント変動地形に対応する南側隆起の逆断層であるというふう考えられることから問屋ながら段差に対応すると判断したということを記載しております。
0:33:20	続きまして190ページをご覧ください。
0:33:25	190ページは、今回追加したページとなっております、北東方延長の地質調査結果になります。
0:33:34	右にルートマップを示しておりますが、緑色で示したエリア全体変動地形の東方延長には赤の破線で示した今泉ほか2018が水系の屈曲を示したさを含めて、
0:33:49	穴水累層の安山岩や凝灰角礫岩が広く分布しておりますが、それらは非破碎であり、断層は認められないことを確認しております。
0:34:01	191ページでは今泉ほかな水系の屈曲を示した沢における詳細調査の結果を示しております、推定活断層の付近には断層は認められないことを確認しております。
0:34:17	198ページをご覧ください。
0:34:21	198ページで宮永断層の端部の調査結果についてまとめております。
0:34:26	170ページの記載とほぼ同じ内容となっておりますが、岩永断層の長さについては、報告東端のSOA付近から南西ターのナンバー6.75測線までの約9km区間を
0:34:42	超過したということを記載しております。
0:34:46	続きまして201ページをご覧ください。
0:34:51	201ページの
0:34:53	右下に示しております。岩永断層から兜岩沖断層間のナンバー7、SN0.7の人U測線の音波探査記録につきまして、この記録は、SPARTブーマーをつなぎ合わせたずっと
0:35:10	なっておりますが、SPARTブーマーが重複しているかについても、

0:35:15	データ集のほうに全線の記録をつけております。
0:35:20	これにつきましては、データ集の 2-1-8 ページをご覧ください。
0:35:28	データ集の 2-2-1-8 ページ。
0:35:40	このページではスパーカーとブーマーの測線をつなぎ合わせた測線の全線の記録を示しております、
0:35:49	SPARTブーマーの重複感については、2-1-9 ページにブーマーの記録をつけていて、2-1-10 ページにスパーカーの記録をそれぞれ別途つけております。
0:36:03	ほかの測線でも同様にスパーカーとブーマーの重複感については、それぞれの率先を別途、このようにつけております。
0:36:15	それから、本資料に戻っていただいて、本資料の 209 ページをご覧ください。
0:36:26	本資料の 209 ページ。
0:36:31	これ能登半島西岸域における渡辺ほかの
0:36:35	耳栓渡辺ほか 2015 の図を右上のほうにつけておりますけども、このずれ、青く囲ったM1m盤面とH面につきまして、当社の評価を青字で追記しております。
0:36:50	これらのM案面とH面については表層に厚い不正砂層や河川堆積物河川堆積物が分布するということから、これらは改正段丘面ではなく、補佐級後期扇状地面であると評価しているということを記載しました。
0:37:10	最後に、本資料の 251 ページをご覧ください。
0:37:20	251 ページ水準点標高の形状変化になりますけども、能登半島における水準点標高の経緯変化につきまして、前回の資料では、右下のグラフで能登半島北部と敷地近傍での累積変位量の
0:37:37	平均値を示しておりますは、今回これらを各地点ごとに分けて示しました。
0:37:44	赤色がへの担当北部の地点、青色が敷地近傍の地点を示していて、黒い色がその他の地点のデータを示しております。
0:37:54	上の箱書きで書いてある結論を記載については変更ありません。
0:38:00	資料の説明は以上です。
0:38:11	規制庁と 2 で説明ありがとうございました。
0:38:15	資料のほうを全体的に御社の考えが
0:38:22	わかりやすく乗ってきているのかなと思いました。それでちょっと
0:38:28	確認なんですけど、前回リニアメントリニアメントと言うと、
0:38:36	の評価ですねここで何か地質調査をやっていないようなことを答えられてたと思うんですけど、今回
0:38:46	浅部のリニアメントで地質調査っていうのが入ってたと思うんですけど。

0:38:52	これはあれなんですかね。もともとやられてた部分のそれとも何か追加で今回やられたんですか。
0:39:03	北陸電力のノハラです。
0:39:05	前回の資料で、敷地近傍のその他とその他の断層としていただき、資料上、地形調査の内容しかつけてなかった。
0:39:15	ものなんですが、それにつきましてはもともと実施調査もやっております、タニ前回の資料につけてなかったというだけで、今回つけてます地質調査というものはもともとやっていた内容を今回資料につけたと。
0:39:26	そういった位置付けになっております。以上です。
0:39:31	はい、確認できました。
0:39:33	つまり例えば5ページとかで見ると、敷地周辺敷地近傍の陸域のこのリニアメント等も全部
0:39:43	地質調査もやってその結果を今回つけたんだと。
0:39:49	ということで、はい、確認できました。
0:40:03	続いてですねあと私細かい点何点か確認していきたいことがあるんですけど。
0:40:16	ちょっと全体でさ、最初に航空レーザー測量の話をごつと説明してもらった17ページですかね、この航空レーザー測量ってこれ教えて欲しいところなんですけど、これって植生を剥いだ状態がMIになってるっていうことなんでしょうか。確認させてください。
0:40:36	北陸電力のノハラです。おっしゃる通り植生の影響を排除した時山の状況がわかるような、そういった
0:40:45	データになっております。以上です。
0:40:49	はい、ありがとうございます確認できました。
0:40:53	あとはですね。
0:41:00	ちょっと待ってください。
0:41:12	あとですね、今回164ページで、
0:41:17	ちょっとこれまで、
0:41:19	の説明からちょっと加えていただいているようなところがあるんですけど。
0:41:25	この164ページで、もうちょっと詳しく聞きたいなと思っているのか。
0:41:31	えっとですね、右側に拡大図を出していて、
0:41:40	bⅡ層の内部にそれら基底面塗布調和な反射面が認められるから、
0:41:46	状の地形上は侵食によるものと判断したっていう説明はあるんですけど。
0:41:53	これもうちょっと個々具体、具体的にというか、この言葉で僕はぴんとこなかったんですけど、なんで基底面等を不調はなものがあつたら、

0:42:04	浸食による大手を地形と判断できるのかっていうのをもうちょっと詳しく教えてもらっていいですか。
0:42:15	北陸電力のノハラです。
0:42:17	164 ページの上のつけていますのが 1 件、
0:42:23	ピンクで示しますB湾N層基底面、
0:42:27	その下のオレンジで示しますB II 層基底面、これが同じような位置で似たような休憩さを示していることから、1 件、断層運動による撓み状のものに見えると。
0:42:43	それが、断層運動でないものに断層運動によるものではないという根拠の一つが、まずは
0:42:50	BIN規定のピンクの線が、このBツ一基底面、黄色の線よりも若干急傾斜がもし断層で、断層運動によるものであれば、
0:43:03	どちらかといえば、下の深いほうが累積性があるので給気になって、浅いほうが緩やかになると。
0:43:10	今回見ればそういった状況ではなく、むしろ若干ですが、逆の傾向があると、これがまず一つ目の根拠。
0:43:17	今ほど谷さんおっしゃいました水その中の反射面についてですが、
0:43:21	こちらも同様で、もし断層運動によるものであれば、もともと
0:43:26	下のオレンジの基底面と同じように堆積していたものが、断層運動によって賜りましたら、
0:43:33	この下のオレンジの線とほぼ並行といいますか、同じような形で反射パターンが、
0:43:39	多様な形状でこの上のピンクの線まで
0:43:42	連続的に／無、
0:43:44	状況になるはずです。
0:43:46	それに対して今回この美術の中の反射面を
0:43:50	青線で示しますが、
0:43:52	例えばそのオレンジの線の
0:43:55	2 本目の青い線があると思いますが、これにつきましては下のオレンジの線と抵抗ではなくて、左側に行くにつれてオレンジの線との
0:44:05	比較が離れるといいますか。
0:44:07	並行ではなくて、間違った傾斜。
0:44:10	で堆積してると。
0:44:12	こういったことが

0:44:14	その断層運動によって一律で動いたものではなくて、堆積ですとか浸食の環境を踏まえて、
0:44:24	一遍に動いたものではなくて、時間を経ながら、
0:44:28	生きたパターンであると。
0:44:30	そういったことから我々のその断層運動ではなくて、今回侵食によるものと、
0:44:34	判断した理由となっております。
0:44:37	以上です。
0:44:46	はい。
0:44:49	お考えが確認できました。
0:44:54	そうですね。
0:45:00	198 ページで、
0:45:03	時が湾岸断層の端部、
0:45:07	ということでまとめられて、
0:45:10	これ、
0:45:12	北側も、
0:45:14	北側の端部は、
0:45:16	結論から言うと、
0:45:18	まあ重力
0:45:21	探査の結果、
0:45:23	によるってということだと思っんですけれども、
0:45:27	ここだけえっと他の断層では露頭見て端部を決めていたりしているんですけれども、ここだけどうして重力なのかっていうのをちょっともう一度ちょっと説明してもらっていいですか。
0:45:44	北陸電力のノハラです。
0:45:46	我々の活動性更新世以降の活動性が否定できない断層の端点につきましては、地形調査、地質調査、多分重力異常などの物理探査、的調査、そういったものを含めて確認する方針としております。
0:46:02	兜岩長さにつきましてはこの重力異常の急変部がこのリーダーの件ですけど対応していると、そういった関係がございまして、
0:46:10	そういった重力異常がリニアメント変動地形ですとか文献断層を越えてさらに北側まで延びる、そういったことがわかったことから、今回取り上げながら差重力を北東たんの根拠として使っております。
0:46:23	それ以外の断層につきましては、重力異常との対応が認められない。
0:46:28	そういったことがございまして、地形調査、地質調査から3点を
0:46:33	決めている。

0:46:34	そういった違いがございます。
0:46:37	例えば福浦断層ですと、
0:46:40	29 ページ。
0:46:42	福浦断層周辺の重力異常というのがございますが、
0:46:46	例えばこの福浦段差ですと福浦断層に対応する重力異常急変部は認められない。
0:46:52	各断層につきましては、こういったふうに断層と重力異常の関係を確認しております。
0:46:59	今回は長さにつきましては、当断層に対応するといった重力異常の
0:47:05	急変部の関係が認められたということで、必ずにつきましては 16 を根拠に用いております。
0:47:11	以上です。
0:47:15	規制庁タニです。はい、説明ありがとうございますと。
0:47:19	これちなみにすいません重力等対応がいいよってというのが、
0:47:25	どこのページを見ればよかったんですかね。
0:47:39	はい、北陸電力のノハラです。192 ページに宮永断層の端部と重力異常の関係を示したページ
0:47:48	そうですけれどもそのページになっております。
0:48:17	はい、わかりました。来そうですね 192 ページの上のところの
0:48:22	箱書きとこう見ていけば、
0:48:24	変動地形にほぼ対応しているってということで説明されてるってことですね。
0:48:29	はい、確認できました。
0:48:38	あとですね、ちょっと細かい点なんですけど、182 ページで、
0:48:51	すみません 182 と 183 で、
0:48:55	ひょっとしたら前も聞いたことあるのかもしれないんですけど
0:48:58	ボーリング位置っていう判例であって、その下に追加ボーリング位置とか追加露頭ピット調査位置ってというのが追加露頭ってこの追加って言葉があるんですけど、この追加って、
0:49:11	いつからの追加の話なんでしたっけ。
0:49:18	北陸電力の小林です。こちらは
0:49:22	この周辺の資料を全壊 2017 年 12 月に 1 回出させていただいておりまして、その時は赤丸で落とした地点の結果を示していたんですが、それ以降に資料として追加した地点につきまして、
0:49:40	今追加ということで書いております。以上です。

0:49:47	ありがとうございます。前回会合の後、この追加ボーリング追加露頭つつピット調査というのをやってるってことですね。
0:49:56	持っておりますと、これはあれですかね、すみません、ちょっと確認できてなくて
0:50:02	ここは壊して、
0:50:04	柱状図だとか、コアとかを補足に入っている。
0:50:08	ということでもいいですかね。
0:50:11	保育電力の小林です。補足のほうに入っております、
0:50:16	補足の
0:50:20	2-4-1-13 ページ。
0:50:26	2-4-1-13 ページ。
0:50:34	それ以降のところにもそうですね、はい。
0:50:39	一通り入っております。
0:50:42	以上です。
0:50:43	わかりました確認できました個々のだからあれですね、182 とか 183 とかに書いてある。
0:50:50	白抜きのマルだとか資格とかっていうのはもう補足そこ説明の中に必ず入ってるんでそれを見てくださいっていうところですね。
0:50:59	ということでもいいですよ。はい、はいその通りです。はい、確認できました。
0:51:06	あとはですねちょっとなんか全然今回の大坪川ダムっていうダムがあるじゃないですか、今回あの長
0:51:14	横で福浦断層を見ているダムは御社のダムなんです。
0:51:20	ここ、
0:51:22	はい、北陸電力のノハラです。当社のダムになります。
0:51:27	はい。ということのをこれって何かダムの調査とかっていうデータも御社持たれているんですかね底盤の
0:51:35	データだとか地質の
0:51:37	ボーリングのデータだとかそういうのもあるんですか。
0:51:47	北陸電力ノハラです。
0:51:49	当社のためなんですけど古い時期に建設されたもので建設当時のそういったデータは現在持ち合わせておりません。
0:51:59	以上です。
0:52:06	はい、確認できましたと。
0:52:14	あとですね。
0:52:18	ちょっと私音波探査の記録を

0:52:24	今回も追加していただいたりしてきているんですけど、何かやっぱりですね。
0:52:32	2-1、データ集 2 の 2-1-2 ページで、
0:52:37	何ていうのかな側線を見つけようと思うと、なかなか場所がわからなくて、
0:52:47	側線の一応わかるんですけどそれがどこに対応するのとかっていうのがですね、側線の名前をおんなじような名前か結構ついてたりして、
0:52:58	わかりにくいんですけども、
0:53:02	例えば 2-1-3 でありますよね。
0:53:07	6.5 に U-①。
0:53:11	次のページに U-② っていうのがあって、これはあれなんですよ。
0:53:17	どういう関係かっていうのは
0:53:21	測定点番号をずっと見ていかないとわからない。
0:53:25	ですよ。
0:53:31	その次に、
0:53:34	6.5S
0:53:37	6.5S の
0:53:43	スパーカーと 6.5 次のまたページが 6.5 っていうのがあって、
0:53:48	こういうのをこう何か
0:53:51	測線図で見ていくと。
0:53:54	何かすごくわかりにくくて、
0:53:58	なんかこうこうすればすぐわかるんだとかいう見方があるんだしたら教えて欲しいし、なかなかこう、
0:54:06	難しい見えにくいんだっていうんだしたらちょっと。
0:54:09	工夫していただきたいなという点があるんですけど、何かこう、
0:54:14	この測線はこうこここの位置であるっていうのをすぐ見分ける方法って、これあるんですか。
0:54:22	北陸電力のノハラです。
0:54:25	こちらの測線の位置と見分けにくいので申し訳ありません。また資料のほうを工夫して、
0:54:32	見やすいようにされております。例えば補足資料の
0:54:36	1.2-2-2 ページ。
0:54:42	音波探査洪積図というものを載せております。
0:54:49	1.2-2-2 ですね。
0:54:58	この今の補足資料の 1.2-2-2 ですと、当社のスパーカーの
0:55:06	浅いところを対象にしたスパーカー
0:55:09	がピンクで深いところを対象にした協力のスパーカーが青

0:55:14	そしてブーマーが黒と色分けして、測線図を示しております。例えばこのように、
0:55:21	探査手法ごとに色分け、
0:55:24	そして、位置図を示したりですとか、それ例えばもう
0:55:29	例えばこんなような形で少し見やすいように、資料の方へ区分したいと思えます。
0:55:34	やっぱな測線に開けるときの測定点だけ置いてかけていくと、見にくいというときには例えば東西測線、
0:55:42	見る場合、
0:55:44	ですとの交差する南北測線の測線番号を記録中に、
0:55:51	一応示しておりますので、そういった交差する南北測線の
0:55:57	いう時に参考に、実際我々もしてますので、そこが一つ見やすくする、自分で見るときに見やすくするポイントかなというふうに思っております。以上です。
0:56:10	はい、ありがとうございます。
0:56:11	ねえ。多分、そうなんでその素朴測線の位置だとかを見ていってるんですけど、何か
0:56:21	これがどの範囲なのかっていうのが結構
0:56:25	途中で高速性の名前が同じ1本の線で書かれておきながら、途中で側線の名前が変わってる所も、
0:56:34	何かってどこから変わるのかとかがちょっと
0:56:37	見ててわかりにくいんですね、確かにこの即点を追いかけていくと、この辺なんだらうなっていうのはわかるんですけど、ちょっとその辺を工夫していただくと、すごく助かりますのでぜひ今後お願いできたらなと思えます別にこれ会合までに
0:56:54	つけてくれとかそういう話をしてるわけじゃないんですけど
0:56:57	そのうちちょっと
0:56:59	工夫していただけたらと思えますので、お願いします。
0:57:06	北陸電力フジタです。今ほどの見やすくする点についてはインデックスとどういうふうにつくるかというふうに考えてしっかり対応します。以上です。
0:57:26	規制庁のカイダです。
0:57:29	私の方からも少しだけ確認等させてください。
0:57:36	97 ページで、
0:57:42	数字が入っているコード確認箇所という
0:57:46	黄色い丸があって、
0:57:49	注1面の

0:57:51	コードがこう書いてあるところがあるんですけども。
0:57:55	の
0:57:56	一番期間に 21.2、22、21.2 と書いてあって、
0:58:03	その次が 2322.3 っていう
0:58:07	11 測線と 2 に測線が、
0:58:11	その間に割とこう距離が離れているんですけども、
0:58:16	こちら辺の何というか、
0:58:18	要は敷地のすぐ南のところから、
0:58:23	兜岩って書いてるところ。
0:58:29	この広い面とか、
0:58:31	そのすぐちょっと南のちょっと 22.3 っていう箱書きが少しかぶってるこのまま少し狭目なんですけど。
0:58:40	まあまあ広い面があってこの辺りの
0:58:44	このコードのところの数値っていうのは、
0:58:47	これは特に書いてないんですけども、これは書くことはできないのかなっていうのは、
0:58:54	確認なんですけれども、これはいかがでしょう。
0:58:58	はい、北陸電力の浜田です。今患者さんおっしゃられた範囲につきましても、地形断面は、取れております。今回ここを載せなかった理由ですけれども、うち段丘 I 面の旧汀線高度につきましては、
0:59:13	赤字で書いてある旧汀線高度は、地質的に辺 9。
0:59:19	傾斜が急に変換できる。
0:59:22	研究に傾斜変換している箇所まで、特定できたものとなると、今載せているもので、今おっしゃられた市田市と新井田市につきましては、この横で言いますと緑の標高は示すことはできるんですけども。
0:59:39	赤の標高を推定することができなかつたので、今回ここには載せておりません。参考として緑の標高とでもいいのでっていうのであれば、何断面かとしてありますのでそれをつけることは可能ですので、
0:59:55	もしそれでよろしかったらそういう形で示しますし、赤の数字でしっかり見るということでは我々ここで
1:00:05	精度の高いものを選抜したという意図で今回はこのような資料にしております。以上です。
1:00:14	はい、規制庁のカイダです。
1:00:16	例えば同じ場所ですね
1:00:21	何ページ。

1:00:23	92 ページを見ると、
1:00:28	何とか特徴的な。
1:00:31	この方向断面で切られてると思うんですけども、まさにその
1:00:34	C' CC' と D' っていうのが、
1:00:39	今ほど申し上げたところを通過してですね。
1:00:43	このスケールで見るとは、ちょうど円満面が崖の下にぶつかるようなところまでこう書いてあって、
1:00:54	今ほどおっしゃったような
1:00:57	赤いやつ。
1:00:59	のにさ、赤色の数字に相当するもの、
1:01:02	なんか読めるの読めるっていうところなのかなと思ったんですが、それはちょっとよく見るとそうではないっていうそういう御説明でしょうか。
1:01:14	北陸電力の浜田です。今おっしゃられた通り、地形的には見えるんですけども、例えばちょうど旧汀線の箇所が要は田んぼですとか工作によって人工的にちょっと改変されているような場所ですとかそういう理由で、
1:01:31	もともとの感染或いは堆積物の株というものをボーリング等では押さえておりませんのでしてできないんですけど、おっしゃられてる地形的には明瞭な傾斜変換点というのは、
1:01:46	確認できております。以上です。
1:01:53	規制庁カイダです。わかりましたじゃ
1:01:56	そしたらですね黒い数字だけでもいいので、そこにこの部分についても、ちょっと表記の仕方はお任せしますけれども、
1:02:10	真っ黒に相当する数値っていうのがわかるのであれば、記載をしておいていただきたいんですけど、それはよろしいでしょうか。
1:02:20	はい、北陸電力の浜田です。承知いたしました。追加したいと思います。以上です。
1:02:30	はい、よろしく申し上げます。把じゃまた規制庁のカイダですけどまた別の観点ではこれ単に見方の確認というところなんです。179 ページをお願いします。
1:02:49	ここで今ボーリングコアを
1:02:53	178279 ページで前回からちょっと資料を追加記載を追加されてこの部分、どういった側線の配置かとか、
1:03:06	あと、どういったことでこの
1:03:09	破碎部を今回断層と認定したかっていうところは追記されたんですけど、179 ページの編成数のところで、
1:03:20	確認させていただきたいんですけど、

1:03:23	基本逆断層センスっていうふうなことが書かれてあって、
1:03:29	文献とかで、
1:03:32	とか、あと、
1:03:34	御社の
1:03:35	判読でも、
1:03:37	結局横ずれが見えなのか、何か。
1:03:42	文献でも縦ずれしか読んでないのがあったりというところがあってこの編成するのが気になっての確認なんですけども。
1:03:50	逆断層、
1:03:52	ポイントで、あと、また商工横ずれ成分も出てきてるんですが、
1:03:58	これちょっと宇和盤下盤というところもあって、
1:04:02	確認なんですけどこれ逆断層センスで
1:04:06	えっと、横ずれの成分持ったら、
1:04:09	どっちずれが想定されるっていうことになるのか。
1:04:15	確認したいんですけれども、
1:04:19	電力の小林です。こちらですね、逆断層の場合は、左下のほうにレーク書いてありまして、左横ずれの件数になります。ただしそれは
1:04:34	南傾斜で逆断層の場合に、左横ずれセンスになるということになります。
1:04:43	以上です。
1:04:46	はい、わかりました。今南傾斜の断層を確認してそれでこの平成するだと。
1:04:54	左横ずれになると。
1:04:57	ということですね、
1:05:00	じゃあの文献で右横ずれがあるっていうのは、
1:05:04	っていうのと反対っていう
1:05:07	文献は別に耳
1:05:10	南
1:05:11	傾斜角北傾斜角を示してないですけども、
1:05:16	少なくとも今回見つかった断層っていうのは、
1:05:19	左横ずれ成分を持つ逆断層っていう
1:05:23	そういったところになると考えてよろしいですか。
1:05:28	北陸電力の小林です。今カイダさんおっしゃいました通り、やはり横ずれ、条線絡みます条線トリップからトリーから見ますと、左横ずれの成分を持つ逆断層というふうに壁が得られます。
1:05:43	以上です。
1:05:47	はい。

1:05:47	規制庁のカイダです。
1:05:49	前回も少し話が出たんですけども、防ホールとかとられていない中で、
1:05:57	南傾斜だっていうのは、
1:06:03	リニアメントに対応するところ。
1:06:06	に出るのかなというのほかに何か地質的な分布等からも、
1:06:11	想定されるんですけど、ちょっとこれも確認ですが、
1:06:18	北陸電力の小林です。南傾斜と考えております根拠としましては、まずおっしゃいましたように、地形的に南上がりになっていて、まずあのボーリングでA断層センスが見られているので、
1:06:34	南傾斜で皆様南上がりの逆断層、逆断層だろうというふうに考えておりました、他のデータとしましては、一つありますのが反射法のほうがありまして、180。
1:06:50	4 ページ以降になりますが、
1:06:54	こちらのほうでもボーリングで見られた断層の位置等対応するような値に良い反射面が見えまして、
1:07:06	逆断層的に見えるということがあります。
1:07:09	あとは
1:07:11	重力異常の方からも
1:07:15	192 ページのほうですね。
1:07:18	南のほうがええ。
1:07:21	高くなっておりまして、で、こちらを
1:07:25	ですね。
1:07:26	194 ページのほうでひらまつTall2019 という論文があるんですが、こちらのほうで解析をしております、こちらでも南傾斜の逆断層として、説明できるというようなことが、
1:07:42	文献については書かれているということになります。
1:07:46	以上です。
1:07:50	はい、規制庁の甲斐です。わかりました。今
1:07:55	えっとおっしゃったところの資料持ったら確認しますので、私の方から以上です。
1:08:15	規制庁のマツスエです。ちょっと教えていただきたいんですが、福浦断層ですね。
1:08:22	どこから 63 ページ。
1:08:29	文献調査ではH2 面に変位が隆起してるとかというのが 62 ページのほうに書いてあって、63 ページに、

1:08:39	御社の地形判読の結果として、
1:08:45	は、隆起とか、
1:08:48	そういう言葉がなくて逆向き堤外という表現をされてるんですけども。
1:08:54	逆向き低がいい。
1:08:58	という表現でよろしいんのかっていう確認なんですか。
1:09:02	いかがでしょうか。
1:09:08	北陸電力の木村です。
1:09:13	逆向き堤外と書いてあるのは普通なら改正段丘面、
1:09:21	海側に向かって緩やかに傾斜していくと思うんですけども。逆向きま海側高い崖が見え見られるということで、逆向き低替えというふうに表現しております。それで、文献のほうは、
1:09:39	西側の改正段丘面が 20 メーター隆起というふうに書かれておりますけども、
1:09:46	もう我々のほうは河成段丘面、
1:09:49	隆起は、
1:09:54	下にしているというふうに評価しておりますけども、西側と東側の改正段丘名
1:10:03	を比較してどちらが何メートル隆起というふうな評価はしておりません。それにつきましては、
1:10:14	改正段丘面の
1:10:18	面区分が文献等、我々のほうで評価が異なっておりまして、我々のほうは、
1:10:28	会議から海側からの連続性をもとに、I 面 II 面 3 面というふうに区分しておりますけれども、どういったあの断層挟んで、同一の段丘面が
1:10:42	西側が高くなっているというような見方は、
1:10:46	いうA評価はしておりません。
1:10:49	ので。
1:10:52	まあ、段丘面の高度差というような評価はしておりません。ただ、
1:10:59	この崖ですね、右側が、
1:11:01	高くなっている。
1:11:03	がけ。
1:11:04	が見られるというのが、断層の特徴として見られますので逆向きの低外というのを
1:11:13	地形要素根拠として、リニアメント変動地形を判読しております。
1:11:18	はい。以上です。
1:11:20	規制庁の松浦です。
1:11:24	ちょっと逆向き低が一定一般に言われている言葉と要綱がなんかちょっと違うように、

1:11:31	思うんですけども、
1:11:35	東から西に向かって全体的に低くなる地形の中で、
1:11:41	西側のほうが、
1:11:43	高くなってるかだけを
1:11:45	逆向き低該当というふうに表現されているという御説明だったと思うんですが、
1:11:51	です。
1:11:54	そういう説明の上でなお且つリニアメントの両側の段丘面の比高差については言及しないと、調査をしていただいたってというのはちょっと矛盾してませんか。
1:12:05	どうでしょう。
1:12:16	北陸電力キムラです。
1:12:18	段丘面の高度差について、
1:12:22	なんですけども、我々
1:12:26	浦断層の
1:12:28	東側の面を西側の面と、
1:12:32	こと異なる面として区分しておりますけれども、
1:12:37	この段丘面の部分が同一面であるか。
1:12:42	異なる面であることなど時代の面であるかというのは、実際には、テフラなどの
1:12:51	絶対年代の指標がないと明確に言うことはできないということで、
1:12:58	同一段丘面の高度差、
1:13:02	ということはちょっと明確に言えなかったものですから、
1:13:09	この地形を見て、西側の
1:13:13	点け面が高いということとあと西側の段階で段丘面の分布するエリアが撓み状を呈する地形が見られるとこのことをもって、西側隆起の逆断層というものを推定して、
1:13:30	リニアメント変動地形を判読しております。
1:13:35	はい。
1:13:37	その辺は、
1:13:39	もう少しきちっと、
1:13:41	根拠進めして表現させていただきたいと思いますので、
1:13:48	ただもう、何でもかこういふこととお話したかっていうと、構台南のほうですね 112 ページ 113 ページのほうでは、
1:14:04	活断層研究会ではHをH1 面の比高差があるので、檀リニアメントとか、いや、
1:14:12	确实増にとりして評価してるという文献の指定するのね。

1:14:17	段丘面に高度差はないという論理を使っておられるので。
1:14:23	その辺もあわせてもう少し
1:14:27	段丘面退避のエビデンスも含めて、
1:14:32	詰めていただければと思います以上です。
1:14:36	はい、北陸電力の浜田です。今の御指摘踏まえまして福浦断層につきましてもだんだんキムラいいました2段目に高度差がないということではなくてわからないということですので、ここら辺の段丘面の区分の
1:14:52	根拠も踏まえましてここについて詳細に記載したいと思います。以上です。
1:15:11	規制庁タニですけどちょっと関連なんですけど、檀健の高度は、
1:15:17	高度変化はないんだっていう説明前されてなかったんですか。あるんですか。それでちょっと確認させてください。
1:15:27	わからないわからないっていうのが本当なんですか。
1:15:36	はい。ハマダですけど、63ページご覧ください。
1:15:40	ここでの例えば
1:15:44	A断面を見ますと、ピンクで書いてあるH4面と、その横に書いて今我々の段丘面久米田H2面で時代性の違うものが近接しておりまして、同じ段丘面のものはもう少し離れたところに、
1:16:01	ありますので、ここと明確に比べることができなかったということです。ただ言われまして先ほど説明しましたように、H4面の傾斜が完全にたわんでありますし、このこの
1:16:14	撓み状の地形って書いてあるこの部分のH4面だけを見ても、H多めに変形があるということが推定されますので、ここで逆向きの低外西側隆起という推定をしているということで、ちょっと他の先ほどの構台と比べまして
1:16:31	同一段丘面がちょっと離れていますので、
1:16:36	わからないという表現をいたしました。以上です。
1:16:45	規制庁タニです。はい。状況が起きました。
1:16:49	ちょっと離れているからはっきりとしたらこうだ高さの違いがあるかないかっていうのがわからないということですね、これって結局福浦断層っていうのは、
1:16:58	書いてる範囲っていうのは日活とあんまり変わらないんだけど、
1:17:04	その根拠としているものは、結局のところは日活ともちょっと違うし、デジタルマップとも少し違う。
1:17:14	様相判読してみているっていうことでもいいですかね。
1:17:22	ノハラです。おっしゃる通り、
1:17:25	若干見ているものは
1:17:27	違います。

1:17:29	以上です。
1:17:32	はいタニイソダから表評価評価結果はここに断層があるというのを、変わらないんだけど、その辺の
1:17:41	根拠はちょっと違うということで理解しました。
1:17:45	はい。
1:17:53	規制庁のカイダです。私のほうからちょっと今の少し関係するかもしれませんがけども、
1:18:00	前回ヒアリングのときにへと 63 ページの
1:18:05	ところで、
1:18:07	逆風規定外のリニアメントとか追加、
1:18:12	されてそれが、
1:18:15	これ、
1:18:16	63 ページの
1:18:18	このCC´、
1:18:20	断面のところを見、
1:18:23	見て
1:18:24	そうは言っても両方に 12 面っていうのが、挟まれるような形で、
1:18:29	逆向き堤外っていうのがあった。
1:18:32	あるけど、
1:18:33	特に高度差がないようにも見えるけど同伴どう評価したのかっていう確認させていただいたら、
1:18:41	うん。その高さ日そもそも比較してるんじゃないくて、
1:18:46	逆向き低外のところだけを見て、何かこうタニのなんていうか、気分みたいなところを聞いているので。
1:18:55	もうそもそも高さの比較は、
1:18:58	してなくて、その他もうピンポイントで見た崖の基部みたいなところのことを指して逆向き堤外を言ってるんですよっていう説明だったように、
1:19:10	気がした人分ちょっと記憶してますということで何か 65 ページの
1:19:15	この青い線も、
1:19:17	ちょっと検討して直線刻印直すかもしれないみたいなお話もあって、
1:19:25	そうではなくて
1:19:28	もともとこのタニの中に真ん中に書いてあったんです。
1:19:31	この青い線をちょっと危惧納期部というか、西側にちょっと寄せた谷筋の
1:19:38	西側に寄せたような形で、
1:19:40	温泉を少し修正されたっていう

1:19:44	ところがあるかなと思うんですが、
1:19:48	ちょっと細かいところの確認なんですけども、わからないからとかじゃなくて、企画してないのかというかそもそも、
1:19:58	逆向き堤外っていう評価の中に、
1:20:00	段丘面の対比っていうことそれは特に評価対象に入れずに、
1:20:06	その部分を見て、そういう形になってるからっていう
1:20:11	説明かなと、前回の時思ったんですけれども、
1:20:15	うん。
1:20:16	先ほどの話だと何かその辺りは、
1:20:19	わからないからっていうような
1:20:22	わからないとかいう数字、そういった
1:20:25	一応何か評価をしようとしたというか、した上でわからないっていうのはそんなふうな説明にも少し聞こえたんですが、
1:20:34	ちょっとそこあたりちょっと事実関係をもう1回確認したいんですけれども、
1:20:40	よろしいでしょうか。
1:20:45	はい、北陸電力の木村です。今ほど、カイダさんおっしゃった通りなんですけども、こちらが逆向き堤外というのは、65 ページのDランクのリニアメントとCランクのリニアメントありますけども、
1:21:01	タニ地形の西側のへりの描けが系が直線的に連続しているということで、この崖を逆向き堤外と呼んでおります。
1:21:14	それで、段丘面、63 ページのCC' 断面の
1:21:21	H2 面の高度差は見てないのかということなんですけども、これこちらのH2 面につきましては、非常に分布がやせ尾根状を呈しておりまして、
1:21:36	浸食等の影響もありまして、本当に高度差を議論
1:21:42	できるような明瞭な断 9 名ではなかったということから、
1:21:49	H2 面の
1:21:53	上盤側、下盤側の高度差という点については明確には確認できなかったというのが事実関係でございます。
1:22:04	以上です。
1:22:07	はい、わかりましたじゃ。
1:22:09	カイダです。ええということは結局その段丘面構造の
1:22:15	高さを比較してっていうそういう要素はもう
1:22:19	わからない。
1:22:20	ちょっと検討ができないから入ってなくて、
1:22:24	斜面のへりの部分をとっていうそうすと、それだけの

1:22:30	意味で、少なくともこの
1:22:33	大坪川ダムのところのやつは書いてあって、
1:22:38	他のところも、そういった
1:22:42	全体にわたってそういう考えっていうか
1:22:46	考え方は同じだということで、
1:22:49	よろしいですか。よろしいというか、そういうふうになってるのかっていうのを確認したいんですが、
1:22:57	はい、北陸電力の木村です。
1:23:01	クーラー断層ほかのところにつきましても、例えば北のほうにつきましても、地形も一番の特徴としてはこの崖が直線的に連続していると、東側が低い欠けが直線的に連続しているということが最も
1:23:17	特徴的な値付けかなというふうに判断しまして、この崖の直線性連続性をもって、
1:23:29	役目堤外からなるリニアメント変動地形というものを判読しております。
1:23:36	以上です。
1:23:39	パラディスわかり一応そちらの検討されてる内容については確認しました。
1:24:01	規制庁規制庁刀禰です。ちょっとまた話が変わってしまうんですけど。
1:24:05	251 ページで、
1:24:09	水準点標高の
1:24:11	刑事へんかっていうことで、
1:24:15	右下のグラフ新しく追加していただいて、ここで各店の状況がわかるようになったんですけど。
1:24:23	えっとね、
1:24:25	1990 年ぐらいのところで全部科学ってこう
1:24:29	与えが違ってますよね。これって何か
1:24:33	データ確認なんていうんですかね、この用意みたいなものって何かこう考えられたりしているんです。
1:24:44	米国のコバヤシする。こちらなんですけど、
1:24:49	正直なところを具体的にこれがあったからこういう傾向になっていることとはちょっと把握できていないんですが、
1:24:58	これまた
1:25:00	11 という点を基準としておりますので、
1:25:03	そこにちょっと変化が基準点のほうで何か変化があったかって、そういった要因が考えられるのかなというふうに考えております。以上です。
1:25:18	はい。

1:25:21	今後確認できます広報おんなじぐらい。
1:25:24	差が出てるんですかね全部この辺点学則未収してるんですけど、全部がもう同じ傾向で、ちょっとこのときだけ越畑以外のところはほとんど同じぐらい下がってるような、見た相対的にですね。
1:25:41	ということなんですかね、ここ。
1:25:45	電力の小林です。ちょっと絶対量で全部同じというわけではないんですが、傾向としましては、ほぼほぼすべての地点でこう上がっているというふうに見ておられます。
1:26:00	以上です。
1:26:03	タニですはい確認できました。
1:26:22	規制庁サグチですけども。
1:26:24	ちょっとですね資料全体通して
1:26:28	私みたいな素人でも、もうちょっとわかりやすいようにというところでわかりやすさの観点ですね幾つかちょっとわかりづらい部分があるのでちょっと確認をさせていただきます。まず 46 ページなんですけど。
1:26:42	この 46 ページが陸域の活断層評価フローということで、
1:26:51	敷地を中心とする半径 30kmと 30km以遠でありますけど、30kmの範囲のところで、まず文献調査と空中写真判読があつて、それらから今度詳細調査に移るんですけど。
1:27:08	この空中写真判読によるリニアメント変動地形、
1:27:14	というものと詳細調査の一番上にある変動地形学的調査ってこれどうどういうふうに違うんですか、ちょっと教えてください。
1:27:28	連絡のノハラです。
1:27:30	46 ページのまず空中写真判読のほうは、要するにリニアメント変動地形の有無を、
1:27:37	安定するものになります。
1:27:39	それに対しての詳細調査のほうの変動地形学的調査につきましては、例えば段丘面の認定ですとか、前段丘面区分
1:27:48	まずだけ面の高度差の確認、そういったものが変動堰学的調査、
1:27:54	に含まれます。
1:27:56	以上です。
1:27:58	はい、サグチです。そうすると、この詳細調査のところは特に
1:28:06	地質調査のがんっていうわけではないんでいいんですね、

1:28:12	要は地質踏査結果とかそういうのも含めてこの変動地形学的調査に入るのかなどうなのかなと思ってちょっとお聞きしたんですけど、そのあたりってどうなんですか、これはあくまでも地質図から読み取る
1:28:29	というものでよろしいんですかね空中は写真判読っていうのを、
1:28:34	いうのはもう空中写真とか後でもとかを使って、
1:28:37	いわゆる標高ですよ。その違いで読み取るものであって、詳細調査のほうは地質図のほうから読み取るってそういう理解でよろしいですか。
1:28:50	北陸電力のノハラです。詳細調査のほうの変動地形学的調査につきましては岩級面の認定というふうに私先ほど言いましたが、その中には、例えば本当にそれが例えばM反面なのか、そういったことを自主的にボーリングですとかピットですとか、
1:29:07	そういったデータを踏まえて、そこを段丘面と認定することも含まれておりますので、この中には地質的な要素も
1:29:16	含まれております。
1:29:17	以上です。
1:29:19	はいサグチです。一応設備自体わかりましたけど、そうすると、2ポツ目のこの地質調査と何が違うんだっていう今度そうなるので。例えばその変動地形学的調査も、先ほどおっしゃったようなものが用いてるんだったら、
1:29:35	例えば、なんかこう、括弧してですね、実際にやった方法とかをちょっと入れていただく地質調査についても同じですよ。最後のあと一つ、この地球物理学的調査っていうのが、
1:29:51	御社としては、何をこれをさせているものかちょっと教えてもらっていいですか。
1:30:01	北陸電力のノハラです。
1:30:03	地球物理学的調査といいますのは今回の資料につけておりますが反射法探査ですとか、重力探査、
1:30:10	この二つが今外筒
1:30:13	そういうものになっております。
1:30:14	その変動地形学的調査の後に括弧して地質やったことを付けるですとか二つ目の地質調査といいますのは、これ段丘面、
1:30:24	の調査に限らず、連続露頭出したりですとか、ボーリング調査ですとか、そういったことになりますので、そういったことがわかるように資料のほうは修正したいと思います。以上です。
1:30:36	はい、サグチです。

1:30:38	わかりました。その辺りはちょっとお願いしたいんですけど、それでちょっと先ほど御説明で地球物理学的調査というのは半焼反射法とか、重力探査っていう話だったんですけど、どうなのかっていうのと、例えばですよ、あくまでも例えば 61 ページ。
1:30:56	これは福浦断層の評価結果ということで、概要であり、まとめたこれページだと思んですけど、これ今おっしゃったような物理学的調査の結果ってどれかって言うと、
1:31:12	これ、この場合は左に反射法探査の結果ってあって、正しいと重力探査のことって一切書かれていなくて、また部資料だと、この福浦断層も一番最後ぐらいですかね、90、
1:31:26	9 ページのところにはもちろんあるんですけど、これについて特に言及はされていなくて、むしろ先ほどいろいろカイダとかも確認ありましたけど、逆にこのときは何らかの断層でしたっけ。
1:31:40	そういったものについては、
1:31:43	重要なのかどうかは別としてですよ。
1:31:47	きちんと 170 ページとか、
1:31:51	100、
1:31:53	そのあとですかね。
1:31:54	198 ページとか、
1:31:56	という形できちんと高重力探査結果、
1:32:01	というのも示されているんですけど。
1:32:04	逆に言うと、
1:32:08	福浦断層とか時我慢なんかっていうのは当然反射法なりがあるんですけど、他の
1:32:19	断層ですよ。
1:32:21	例えば永田付近の断層、
1:32:24	これは、
1:32:25	実は地球学的物理的探査とかの、その結果、101 ページとか、これ一切書かれていなくて、
1:32:34	そうすると、
1:32:35	結局、
1:32:37	最初の 46 ページのフローで詳細調査を
1:32:42	しているのかしていないのかが実は
1:32:45	よくわからない、あくまでもこれそれは地球物理学的調査に限ってですけどね。

1:32:52	というところでちょっとわからないので、
1:32:55	当然
1:32:57	最後のほうまで見ていくと。
1:32:59	この各断層も評価の最後には必ず重力探査結果というのがついていて、それに対応するようなものがあるのかないのかというのがちゃんと書かれていると思いますので、
1:33:13	それはやっぱりまとめのところに、
1:33:18	調査結果の一つとして、
1:33:20	まあ、あのフローがフローで示している以上はいるんじゃないんでしょうかと思ったんですけど、そその辺りがちょっとよくわからないなど私はちょっと素人的に思ったんですけど損ちょっとその辺りでどのようにお考えか教えてください。
1:33:39	はい、北陸電力のノハラです。現在の使用料につきましては、各断層の頭のページの評価結果のところにつきましては、16条に対応するもの、今回に限っては、岩永の断層だけになりますが、それについて書いてありますが、
1:33:55	断層と重力異常の対応が認められないものにつきましては書いてありませんでした。ただいまの先さんおっしゃる通り、最初のページで、そういったことがやったら分かってないかわからないということですので、資料のほうへ最初のほうにその重力の結果も記載するというので、資料の修正したいと思います。
1:34:16	以上です。
1:34:19	やはりサグチです。すいませんあくまでもそれはわかりやすさの観点なのでちょっと格子お願いしますということと今度逆にもう一つ、52ページですが、この海域の方。
1:34:31	海域のほうも同じようなとつとことを確認させていただくんですけど、敷地を中心とする半径 30kmの範囲で文献調査等、海上音波探査、
1:34:42	をやった上で今度詳細調査ということで、これは音波探査記録の解析とあるんですけど。
1:34:49	詳細調査の音波探査記録等、それからその左の海上音波探査、これは具体的にどう何がどう違うのかちょっと教えてください。
1:35:07	北陸電力のノハラです。フローの左のほうの会社パターン 3 につきましては、まず断層があるのかないのか、
1:35:17	そういった構造があるのかないのかというのをまず抽出する流れと作業になります。
1:35:23	その後右側のほうの詳細調査につきましては、ではその断層の活動性が例えば後期更新世以降に活動をおよぼしているのか、ですとか、例えば端部の止め、その断層の長さがどこまで続いているのか。

1:35:39	そういった観点でも詳細調査に
1:35:44	分けております。
1:35:45	以上です。
1:35:48	はい、サグチです。多分おっしゃられることはわかるんですけど、そうすると別に左で落ちちゃうものもあって、この右の詳細調査までいかななくてもいいようなものも多分あるんじゃないかなとは思んですけど、
1:36:04	いずれにしても、左の段階で落ちちゃうものっていうのは、じゃあ、そういった
1:36:11	ある意味、活動性評価みたいなものですね、そういうものは一切含まれないのか、純粹に断層があるのかわからないのかっていうことだけを、この左の開海上音波探査で、やっている、と、そういう
1:36:28	今御説明だったと思うんですけどまずそういう理解でよろしいですか。
1:36:34	北陸電力の件です。そういった認識で我々考えております。
1:36:40	以上です。
1:36:42	はい、サグチです。そうすると、ちょっとこの詳細調査の
1:36:47	音波探査記録の解析っていう文言がいいのかどうかっていうのはちょっとそこを任せますけど、今のをちょっと今後資料だと、ちょっとその違いは何か何か。
1:36:59	見えづらくなっているところもあるので先の陸域と同じような形でどうということをやっているのかっていうのがもうちょっとわかるような形で、
1:37:09	示していただきたいとそれに加えてですよ。当庫 143 ページとちょっと見え当庫の 52 ページのこのフロー見比べると、143 ページって。
1:37:25	これ 143 ページだけじゃなくて海域の断層についての評価なんですけど、上の箱書きに文献調査とこれ地形調査ってあるんですけど、この地形調査っていうのは、
1:37:38	52 ページのフローの中で言うところの部分にこれ該当するんでしょうか。
1:37:56	北陸電力のノハラです。今回その後盤島沖断層と兜岩沖断層につきましては、近くにこういった地形の調査ができるデータがあるということで、今回これ特別に
1:38:10	つけさせていただいたものとなります。ですので 52 ページに示しますんでその一般的な流れとしましては、ここには入ってくる場所ありませんが、データを使えるところは友好的に活用しようということで 5 万人大きい断層、兜岩沖断層につきましては、
1:38:28	今回この地形の調査結果をつけております。
1:38:33	以上です。
1:38:34	はい、サグチです。そうすると、

1:38:38	いろいろ分け方はあると思うんですけども、この二つの断層っていうのは、いわゆる近傍の断層ですよね。
1:38:45	52 ページっていうのは、周辺も含めて、30km以内とかっていう、ことがあるんですけど、さらに、例えば近傍の断層については、そういう評価も行ったのか、たまたま今の御説明のたまたまデータがあるからやりました。
1:39:04	いう何かそんなふうにも今聞こえたんですけど、そうじゃなくって、
1:39:09	近傍の断層だから、より詳細な
1:39:14	調査を行うために、
1:39:17	こういった地形調査も含めてやっているのか、もうちょっとそれ教えてもらっていいですか。
1:39:24	北陸電力のノハラです。私が先ほど言い方がちょっとまずかった部分もあるんですが、地形調査につきまして、海域の断層の地形照査につきましては、ガイドのほうでも見るように、そういった記載がございます。
1:39:37	今回の敷地近傍につきましては、こういう高い地形調査する資料もございますし、近傍というのは重要な敷地の近くということで、重要なところもあるということで、
1:39:50	規模につきましてはその 30km内の断層とは違ってより詳細に調査を行ったそういった実績ですので、52 ページのフローなにつきましても、そういったことがわかるように、資料のほうを修正したいと思います。
1:40:05	以上です。やはりサグチです。わかりました。今回一応その敷地近傍の断層の評価っていう説明でもあるので、ちょっと 52 ページはもうちょっとこう、ざっくり 30km ござい策定近傍のところも含めてですね、わかるようにしていただければ。
1:40:21	と思いますので、よろしくお願ひします。
1:40:25	とりあえず私からは以上です。
1:40:32	規制庁クマガエです。
1:40:34	すみません、今の説明にちょっと関連してなんですけれども本日については敷地近傍についての説明ということで、
1:40:41	御説明いただけてますけども、52 ページの海域の
1:40:45	活動性評価フローの中では近傍より詳細また整理していただくとして、
1:40:52	敷地を中心とする 30km 圏内と 30km 以遠ということでここで、評価フローを示されてるんですけど。
1:40:59	最初のこの文献調査になるとかですね、
1:41:02	海上音波探査のによって抽出した結果、断層等っていうのが実際 58 ページのところに、

1:41:08	示されていると。
1:41:10	いうことで、これ
1:41:14	実際に
1:41:15	どういったものが重視されているとかってというのが示されていると。
1:41:19	さらに言うと、今回は、
1:41:24	敷地周辺について御説明されてませんけども、結果自体は4ページのほうに、
1:41:29	示されていて、
1:41:34	フローで言うところの詳細調査ですとか評価とか、
1:41:37	今ご説明あったように
1:41:40	音波探査調査に来活動性とか端部の止めとかですね、さらにはその活動性連続性の評価というのを示した上で、4ページのいうものが示されていると。
1:41:51	ということだと思います。
1:41:53	で、4ページとその58ページの
1:41:57	表を見ていきますと、
1:42:00	今ほどの敷地周辺の
1:42:04	説明ということで、今回、次回以降に説明されるんだと思うんですけど。
1:42:11	そのそれぞれの
1:42:12	どういった評価をしてるのかっていうのについてはですね、きちんと
1:42:17	各断層ごとに御説明いただければと思うんですけども。
1:42:21	例えばですね、58ページで言うと、
1:42:25	東側のほうを富山、
1:42:28	は、
1:42:29	西側海域の断層ということで、
1:42:32	長い断層が
1:42:34	58ページのほうでは示されてるんですけど。
1:42:37	実際詳細調査とかをした後の4ページの評価結果のところではですね。
1:42:44	先ほど° されていたのが、
1:42:46	(13)(14)ということで、
1:42:49	山は西側海域の断層とあと北部ということで、
1:42:54	別々の二つの断層にですね、分けて評価結果としては示されていると。
1:43:00	いうところがあったりとか、しましてですねそれについては、
1:43:05	今後御説明あるかと思うんですけども。
1:43:08	どういった

1:43:10	評価をしたのは端部の評価、連続性の評価されるということでしたので、きちんとそこら辺の考え方とかですね
1:43:18	評価に基づくデータにはですね、きちんと示していただいてそれはもうこのここだけじゃなくてですね、各断層についてもきちんと示しいただくような形で整理していただければと思っております。
1:43:30	いかがでしょうか。
1:43:34	はい、北陸電力ノハラです。今おっしゃいましたので側西側海域の断層につきましては、また次回以降の敷地周辺の資料のほうで詳細を説明させていただきますが、大まかに言いますと、文献で
1:43:48	示されている断層のうち、自社で調査したところもございまして、そういったデータも加味しまして我々13と14と二つ分けて段差を記載させていただいております。
1:44:03	これにつきましてはまた次回以降詳細に努力と示しながら説明させていただきたいと思っております。
1:44:09	以上です。
1:44:11	手帳クマガエです。はい、そこについてはきちんと御説明いただければと思いますし、もしそのそこで
1:44:17	評価フローに
1:44:20	ところでですね、ちょっと記載できないようなところがあれば、余裕詳細にですね、そこら辺についても、
1:44:26	整理していただいて御説明いただければと思います。私からは以上でございます。
1:44:41	規制庁サグチする部分を、すみません、もうちょっとだけの確認をさせていただきたい。それもクマガエの方からあった58ページとそれから4ページの違いなんですけど、これは58ページっていうのは基本的に
1:44:56	文献で示されている断層をそのまま
1:45:02	ということで、逆に4ページは、
1:45:06	御社がそういったいろんな調査も踏まえた上での現時点におけるこれ最終評価、
1:45:16	という間違いがあるっていう理解でよろしいでしょうか。
1:45:26	ただ
1:45:32	伸びるんだけどノハラです。58ページにつきましては、これらの文献調査A及び海上音波探査の結果ということで、文献が図示されている段差につきましてはその文献の断層のトレース。また当社パターン3実施した。

1:45:48	当社で確認者段差につきましてはそのトレースを 58 ページに記載しております。
1:45:54	4 ページで言いますのが、その中で、後期更新世以降の活動性を否定した断層のTRACEになっております。
1:46:02	基本的には 30km 範囲につきましては、当社の調査結果で 30km 以遠につきましては、こちら文献断層のトレースが中心となっておりますが、先ほど本山は西側海域断層のように、一部当社の調査結果も反映した通りです。
1:46:18	になっております。
1:46:19	以上です。
1:46:22	はい、サグチでちょっとごめんさ機器聞き方が悪かったかもしれないですけどあくまでも 58 ページと 4 ページで共通の断層だけ今ちょっとお聞きしたもので、あくまでも評価をした結果 4 ページというのは後期更新世以降の活動が否定できないという
1:46:38	評価した断層っていうのはわかってますけど、渠あくまでも 4 ページと 58 ページで共通の断層べ。例えばその分布ですとか、長さとかが違うのは、58 ページは基本的には文献で示されているようなもの。
1:46:54	そのまま一応、一部その海上音波探査で、御社が決めたものもあるかもしれないんですけど、それに対して、4 ページは、最終的な活動性評価を行うための断層として、御社が最終で現時点で最終的に評価を
1:47:13	したものと違うでもう 1 回、すいません確認ですけどそういう理解でよろしいんですね。
1:47:21	北陸電力のノハラです。そういった認識で構いません。ただその後 18 ページにつきましても、30 綺麗につきましては、当社が実績に調査した断層につきましては、そのトレースを記載しておりますので、30km 以内につきましては 4 ページで 58 ページで
1:47:38	大阪調査断層のトレースは同じものになっております。
1:47:41	以上です。
1:47:43	対策です。ごめんなさいじゃあできればですね、この 58 ページで文献のものをそのまま用いているのは例えば注意書きで、これらの文献で示されている断層そのままっていうようなことがわかるような何か注釈みたいなものを入れていただいでよろしいですかね。
1:48:02	はい、北陸電力の原です。承知いたしました。そのように資料を直したいと思います。
1:48:09	はい、佐口ですすみませんよろしくお願ひいたします。
1:48:39	規制庁のカイダですが先ほど
1:48:43	52 ページとかで

1:48:46	調査の流れが説明してあって、
1:48:50	ここら辺も少しまた関係記載見直すっていう話もあったかなと思うんですが、
1:48:58	詳細調査っていうところでこれ音波探査だけじゃなくて、
1:49:04	ボーリング調査とかして、地層の年代を調べるっていうようなことも、
1:49:10	されてたかなと思うんですけどもその
1:49:13	地質調査っていうのはこの海域のところに、
1:49:17	特に出てきてないんですけども、これは
1:49:22	どうぞ。
1:49:23	海域の
1:49:24	近傍、これはでも 30kmの範囲なので、
1:49:30	その扱ってっていうのはここでは出てきてないっていうのは、
1:49:34	なんでかっていうのもしてるのであれば、
1:49:37	書いておいたほうがわかりやすいと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。
1:49:46	北陸電力のノハラです。今おっしゃいましたように海上ボーリングとか行っておりますので、それもこのフローの中に組み込んで、資料のほうを修正したいと思います。以上です。
1:49:59	はい、カイダですわかりましたよろしく申し上げます。
1:50:11	。
1:50:22	規制庁タニです。大体確認は以上にしたいんですけども、北陸電力から確認したこととありましたら、
1:50:35	北陸電力フジタです。都市の内容につきましては、主に事実確認させていただきましたんで、その内容で資料のほうを修正していきたいというふうに考えています。
1:50:46	こちら確認事項特にございませぬ。
1:50:49	規制庁タニです。はい。資料のほうの一部修正されるっていうことだったんですけど、どれぐらい時間かかりそうですか。
1:50:58	それほどかからない。
1:51:00	内容かなと思うんですけど。
1:51:02	北陸電力フジタです。資料のほうは既存のデータをちょっと見やすくするとかですねインデックスつけるとかってそういうレベルですので、今週中には対応できるように、
1:51:14	したいと思ってます。
1:51:16	はい、わかりました。あとはこれ今回のヒアリングで次は会合を考えてるんですけど。

1:51:25	会合の説明時間はどれぐらいで、
1:51:28	準備しましょうか。
1:51:35	人当時丁寧に説明するっていう形でちょっと30分はちょっと厳しいかなっていう形ですので、40分から
1:51:43	ぐらいはかかると思います。
1:51:46	どうでしょうか、そこら辺は時間がもし
1:51:48	限られた中でということであればそういうふうに
1:51:51	させていただいても構いませんけれども、規制庁タニです。40分で準備したいと思えます。
1:51:58	40分でずんて考えていきます。はい、お願いします。
1:52:06	濃いですか。
1:52:11	それでは今日のヒアリングは終わりたいと思えます。お疲れ様でした。
1:52:17	ありがとうございます。